



Title	西淀川区公立小学校高学年生を対象にした喫煙防止教室の取り組みについて
Author(s)	野口, 愛
Citation	大阪公衆衛生. 2018, 89, p. 19-21
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/78671
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

西淀川区公立小学校高学年生を対象にした 喫煙防止教室の取り組みについて

野口 愛

淀川勤労者厚生協会西淀病院千北診療所副所長

大阪家庭医療センター家庭医療専門医

①はじめに

大阪市西淀川区は戦後高度経済成長期にかけて阪神地区をつなぐ国道や高速道路が建設され、近隣の大工場から発生する硫黄酸化物（SO_x）や窒素酸化物（NO_x）が西淀川に飛散し、区内の工場排煙と合わさって深刻な被害をもたらした地域であった。今は大野川緑陰道路として多くの人が散歩をしたり自転車でサイクリングを楽しんだり整備された歩道となっているが、かつては工場排水によって河川の汚濁が深刻で工場排煙の大気汚染も相まって地域住民の多くの人々が喘息などの公害病に苦しんでいた。1970年に西淀川区公害地域に指定され、私の所属する淀川勤労者厚生協会（淀協）は公害患者やその家族の健康を守るために最前線を担ってきた歴史ある組織である。

大阪市の喫煙率は全国的に見ても高く、喫煙が原因で病気になる患者も多く、公害地域の西淀川区の歴史や、これまでの淀協の取り組みから多くのヒントをもらい、家庭医療専門医として、病院に来院する患者を治療することはもちろんのこと、病気にならないように地域住民の健康を守る働きかけをすることも大事であると考え、積極的に地域に出て「地域丸ごと健康に！」をスローガンに掲げ、2012年から西淀川区の公立小学生対象にした喫煙防止教室を開催することとした。

②喫煙防止教室の取り組みについて

当施設は家庭医研修施設でもあることから、家庭医療専門医や専攻医が複数在籍しており、既存の院内禁煙対策チームから家庭医が中心となるATB（Aあかん、Tタバコ、B撲滅）チームを再編成し、院内で禁煙活動に関わるコメディカルを増やし院内全体で禁煙対策を行うムーブメントを起こすことを意識した。2012年U小学校養護教諭や学校医の協力を得ることができ、第1回喫煙防止教室を実施することができた。対象は高学年生とその保護者とし、講義内容は45分間で「タバコの害」について（有害物質や受動喫煙、依存症など）の知識面のアプローチと、誘われた時の断り方をグループでロールプレイングする2部構成とした。目標は図2のとおり、知識、技術、態度のそれぞれの目標を掲げた。2012年以降は年に2、3校程度しか実施に至らなかったが、これまでの取り組みに理解を示してくださった西淀川区医師会会長の働きかけもあり、2016年からは西淀川区役所や西淀川区医師会の協力を受け西淀川区のホームページ（図3）や学校保健協議会や学校校長会議で喫煙防止教室開催の広報活動を行う事で開催校が大幅に増えることとなった。

【喫煙防止教室目標】

タバコに入っている悪の三兄弟（成分）を答えることができる（知識）

タバコによる健康の害を挙げることができる（知識）

断り方を実践できる（技術）

大人になっても喫煙しないと宣言できる（態度）

【図2. 喫煙防止教室の目標】



【図1. 西淀川区マップ】



【図3. 西淀川区ホームページ】

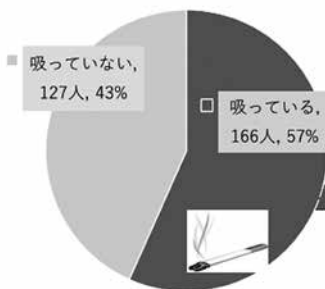
●喫煙防止教室の事前・事後アンケート結果

2016年度は西淀川区公立小学校6校に喫煙防止教室を実施した。事前アンケート結果で293人の児童のうち166人（57%）の児童が受動喫煙にさらされていることが分かった（グラフ1）。喫煙者の内訳は父親が半数以上（166世帯中104人）であり、母親の喫煙者も多いことが分かった。（グラフ2）

事前アンケート結果では、「タバコの中に入っている体に悪い成分について」知らない児童がほとんどであったが、事後アンケートでは多くの生徒が答えることができていた。（知識）

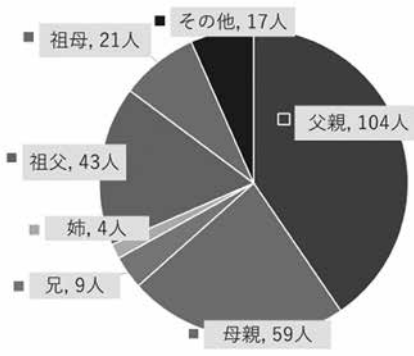
事後アンケートでは「誘われた時にきっぱり断ることができるか」の問いに対して「はい」と答えた児童が90%であった。（グラフ3）「大人になってもタバコは吸わない」と答えた児童が95%であった。（グラフ4）

家族でタバコを吸っている人はいますか？
（6小学校 生徒293人）



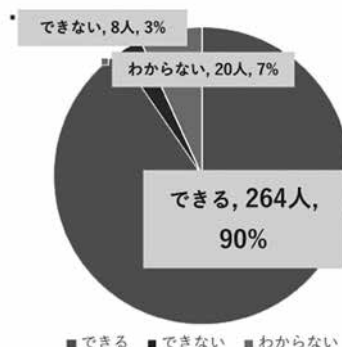
グラフ1. 家族の喫煙率

喫煙家族の内訳 （257人）



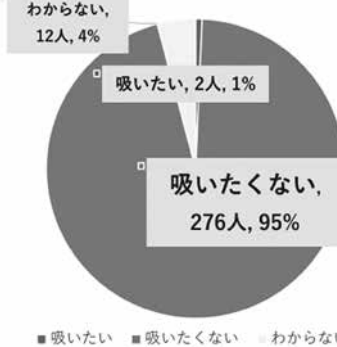
グラフ2. 喫煙者の内訳

【事後】誘われた時にきっぱり断ることができますか？



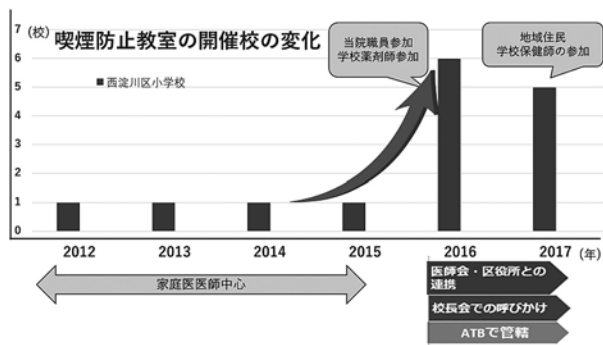
グラフ3. 誘われた時に断ることができるか

【事後】大人になってタバコを吸いたいですか



グラフ4. 大人になってタバコを吸いたいか

●喫煙防止教室活動の変化



(喫煙防止教室 の実際の様子)



多目的室で、電子黒板にスライドを用いてクイズ形式でタバコの知識について講義をしている。



小グループに分かれて、誘われた時の断り方を書き出す (各グループにスタッフ1人を配置)



講義内容を復習 (能動喫煙と受動喫煙の害の大きさの比較)



誘い役 (スタッフ・学校教諭) がタバコを吸うように誘い、きっぱりと断る (生徒) ロールプレイングをしている



●喫煙防止教室後の児童・保護者・学校教諭の感想

児童

- ・家族や身近な人に禁煙するようにすすめる
- ・大人になってもタバコは吸わない
- ・タバコを吸っても、何もいいことが無いということがわかった
- ・依存症は恐ろしい
- ・副流煙の方が害が大きいと知らなかった

親

- ・この時期に学ぶことができてよかった
- ・大人でも勉強になりました
- ・以前タバコを吸っていたので、反省しながら聞いてました
- ・参加型で、断り方の練習もリアルで良かったと思う
- ・一生今の思いを持ち続けてほしい

教諭

- ・写真もインパクトがあり、クイズ形式の講義であきない工夫がよかった
- ・少人数に分かれて、一人ひとり断り方の練習ができるのがよかった
- ・喫煙者の保護者が多く困っていたので、保護者参加型も良かったと思う
- ・今の時期に吸いたくないと思える機会を持てたのはいいことだと思う

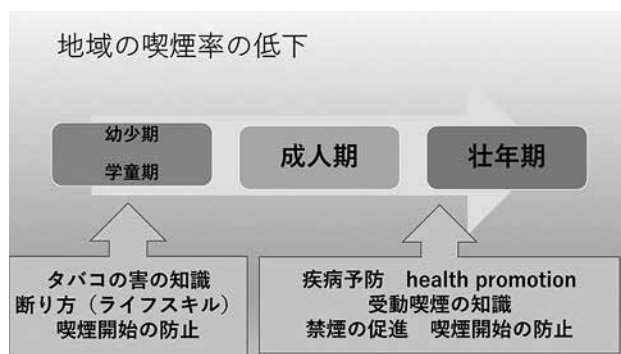
③結果

これまでは西淀川区公立小学校の開催校数は1校/年であったが、西淀川区医師会の協力後2016年度は6校、2017年10月現在5校(年度内に2校開催予定含む)の開催と増加している。また、医師会を通じて、区役所の支援も受ける事となり、補助金を支給されるようになった。様々な立場の方が関り、多職種や地域住民が指導者側になることで、これまでの喫煙防止教室の内容が見直され、質の高い内容へと変化することとなった。

④今後の課題

喫煙開始年齢の低年齢化が問題となっており、低学年から対象にすることや、中学生や高校生やその保護者に対しても継続した禁煙・卒煙アプローチが必要である(図4)

喫煙防止教室を行う事で、地域の喫煙率の低下や受動喫煙率の低下につながることを、どのような方法で測定できるのかを検討する必要がある。



【図4 継続した禁煙・卒煙アプローチ】

大阪家庭医療センター (OCFP)
家庭医・総合診療医養成後期研修プログラム

OCFP設立の経緯と概要

大阪家庭医療センター (OCFP) は、大阪府医師会連合会後援後期研修プログラム「なごみ」を前身として、2012年4月より新たに生まれ変わりました。

当プログラムは、複数の家庭医教育診療所と総合診療科・ERの充実した中小規模病院を持ち、他科研修においても大阪府下でも指折りの研修施設と連携しています。3年間を通じて診療所での外来・訪問診療を継続することにより、地域に根ざす家庭医・総合診療医として成長できることが特徴です。